

週報

2007年 8月 26日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《祈禱会の聖書から》聖書箇所は“ネヘミヤ書”からでした。この書に記されているのは、旧約聖書でも最も新しい内容の一つ、時代としては B.C. 5 世紀のことで、バビロン捕囚から解放され、エルサレム神殿の再建に臨んだネヘミヤ（“主は慰められる” という意味）を中心とする出来事についてです。8 章の 1~6 節が開かれました。7 章では、帰還した人々の、細かな情報が抜け落ちてはいけない事として、記されています。“エズラ記”もそうですが、民を説明するとき、“沢山”とか“なりの人”という言い方はしません。“エズラ記”の最後には、異民族との雑婚に加わってしまった人達のリストに至るまで記録されています。さて、“ネヘミヤ” 8 章ですが、“その時民は皆ひとりのようになって「水の門」の前の広場に集まり、主がイスラエルに与えられたモーセの律法の書を持って来るように、学者エズラに求めた。”という言葉が更に強く響きます。教会でも“兄弟姉妹達”という言葉を使いますが、“心を一つにして”と言った瞬間、このことを言っていることを思い出しましょう。沢山の人々というのは、適当にあるのではなく、神が一人一人の名を呼ばれる時に、一人も欠けることのない、信仰者の群れのことを思いだしているのです。イザヤ 43:1 には“恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ”とあります。神様はそのように私たちのことを思っておられることを、忘れないようにしましょう。ネヘミヤは、人々の主の前での祝福を“律法の厳守”に求めました。それは正しかったのです。6 節には“エズラは大いなる神、主をほめ、民は皆その手をあげて、「アアメン、アアメン」と言って答え、こうべをたれ、地にひれ伏して主を拝した。”とあるように人々の心は整えられていました。この律法の朗読がエルサレムの再建という、素晴らしい時に行なわれたので、私たちにも更によく分かります。“再建”それは素晴らしいことですが、ネヘミヤはもう一つのことを知っていました。私たちの教会にも通じる内容もあるようですが、“建てあげる”ということは、それを維持しなければならない、ということも意味しているのです。13:4 には“われわれの神の宮のへやをつかさどっていた祭司エリアシブは、トビヤと縁組したので、トビヤのために大きなへやを備えた”とあります。主の前の大きな墮落でした。私たちも、気付かずに墮落することのないように、毎日、教会を大切にしましょう。そこに喜びがあるのです。